



# 道徳通信

No. 12

平成28年6月9日発行  
道徳教育推進委員会

## —道徳教育推進教師研修会報告—

5月18日に千葉県教育会館を会場にして、今年度第1回の道徳教育推進教師研修会が実施されましたので、概要を報告いたします。

内容としては、指導課からの説明及び3校からの事業報告がありました。

### 1 指導課の事業説明

(指導課教育課程室 庄司指導主事)

#### (1) 国の動向について

「特別の教科道徳」の位置付けについて

- 目標の明確化
- より発達段階を踏まえた体系的なものに道徳の内容を改善
- 多様で効果的な道徳教育の指導方法
- 検定教科書の導入
- 評価の充実

※小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から実施。

#### (2) LHRでの活用について

- 1学年次に10回以上実施。
- 読み物教材や映像教材等を活用

<望ましい対応>

- ➡ 何らかの表現活動を伴うものに。
- ➡ 表現されたものはクラス内で共有。

#### (3) 学校としての対応について

- 管理職を含めた学校全体での取組を!
- 授業実践の奨励を!
- 近隣の小・中学校へ積極的な授業参観を!

### 2 3校の実践報告について

大多喜高等学校、船橋北高等学校、八日市場特別支援学校の実践報告がありました。

先進事例を数多く紹介され、本校での実践が可能な題材もかなりありました。大多喜の教材を一つ紹介します。

資料 「しかし私には夢がない」 (千葉県立大多喜高等学校 資料より抜粋)

高校生の夢 ～四十七都道府県 四十七人の高校生の夢～

三重 三年 大河内 歩美

進路についてよく問われるようになった。進路についての授業も多くなった。進路説明会や三者面談など、将来のことを考える機会がとても増えた。周りの友達に将来について問うと、答えが返ってくる。「将来の夢」に向かって、みんな進んでいる。

中学生の頃の私には、夢がたくさんあった。高校三年生になって夢を問われたとき、自分は絶対即答できる、そう思っていた。しかし今、私には夢がない。中学生の頃に憧れ、思い描いていた夢は現実味を帯びるにつれて消えていった。将来の夢を問われる。そのたびに、言葉がつまってしまう。私にとって将来は遠すぎる。いくら考えても答えは空白のまま、時間だけが過ぎていった。焦り、不安になる。周りと比べては泣きたくなる。だけど決して諦めることだけはしたくない。流され、妥協して、「なんとなく」の人生を歩むのだけは絶対に嫌だ。答えが空白ということは、その分可能性があるということだ。

私は、自分に許される限りの可能性を使って、夢を見つけてみせる。未来の私が笑っているように。「いつか、胸を張って夢を言えるようになりたい」これが、今の私にとっての精一杯の夢。